

平成 22 年度第 1 回 IODP 部会執行部会

日時：平成 22 年 5 月 14 日（金）14:00～17:30

場所：JAMSTEC 東京事務所 大会議室

出席予定者（敬称略）：

執行部：山崎俊嗣（部会長・産業技術総合研究所）、
安間 了（部会長補佐・筑波大学）、芦 寿一郎（東京大学）、沖野郷子（東京大学）、
坂本竜彦（海洋研究開発機構）、林 広樹（島根大学）、松本 剛（琉球大学）、
森田澄人（産業技術総合研究所）
事務局：菊田宏之、阿波根直一、梅津慶太

欠席予定者（敬称略）：

執行部：池原 実（高知大学）、末次大輔（海洋研究開発機構）、高澤栄一（新潟大学）、
平野直人（東北大学）、山本啓之（海洋研究開発機構）山本正伸（北海道大学）

議事次第（案）

1. J-DESC 総会：とくに、法人化問題.....資料 1
2. 地球掘削推進会議：「掘削科学研究費」、J-DESC 事務局－CDEX との役割分担.....資料 2
3. IODP 掘削航海関連情報.....資料 3
 - ・乗船者募集状況
 - ・OTF 報告
4. New Science Plan 策定（SPWC）への対応について
5. Japan Asia Pacific IODP Consortium (JAPIC)の可能性について.....資料 4
6. 国内専門部会・国際パネル関連報告.....資料 5、6
7. 普及活動報告.....資料 7、8
 - ・普及講演会（5/22, 海洋大）
 - ・IODP/ICDP タウンホールミーティング（5/25, JPGU）
8. 会員提案型活動経費審査結果.....資料 9、10
9. 今後のアウトリーチ活動について.....資料 11
10. その他
 - ・次回開催日程

議事録（案）

1. J-DESC 総会：とくに、法人化問題資料 1

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 総会の際に東大の木村氏より、J-DESC を法人化すべきとの意見が出され、CDEX の東氏からも同調する意見があった。
- ・ 理想として、法人化した J-DESC に MEXT からお金が流れる仕組みを目指す姿勢を見せてほしいとのコメントもあった。
- ・ これにより、IODP・陸上掘削両部会執行部では J-DESC の法人化に関する検討を行うことを今年度の活動に含めることとなった。法人になること自体は定款をしっかりと書く必要はあるがそれほど大変ではない。一方、公益認定については難しい。一般的な学会では難しい。
- ・ 専任の職員を置く必要はない。
- ・ 法人化した後でも、MEXT などからすんなりとお金を受けられるようになるのは極めて難しい。
- ・ 法人化したデメリットとしては、公益認定がされない場合、多少の事務作業が増える程度で、それ以外はあまりない。

J-DESC の法人化については、陸上掘削部会と合同の WG を設置する案を陸上掘削部会に伝えることが合意された。

2. 地球掘削推進会議：「掘削科学研究費」、J-DESC 事務局－CDEX との役割分担資料 2

事務局より資料 2 に基づき、掘削科学研究費について説明がなされた。

- ・ 地球掘削科学推進会議が 4 月 22 日に開催された。
- ・ この会議の場において、掘削科学研究推進費として、年間 3500 万円を IODP および ICDP に共通する資金として運用するという提案が CDEX からなされた。
- ・ IODP としてはどのような使い方をしたいかについて執行部で検討する必要がある。
- ・ IODP および陸上掘削部会それぞれから運用方法について意見を聞き、最終的には地球掘削科学推進委員会（委員長候補：小川勇二郎氏）に諮問する。
- ・ 研究推進費の申請は地球掘削科学推進委員会にて審査される。

以下の点が合意され、地球掘削科学推進委員会へ提案することとなった。

- ・ 運用方法は、基本的にはグループ単位（IODP においては航海単位）で申請を受け付ける。
- ・ 全員が了解していることを示す書類として、承諾している旨のメールなどを申請書に添付する。
- ・ 2nd-post cruise meeting までに申請する。今年度の対象は Exp. 320 以降。
- ・ 関連研究で科研費が採択されている場合は辞退してもらう（申請書に記入欄を設ける）。
- ・ 乗船前から一定の金額が保障されているわけではないことを明確にする（年度予算によって支援金額が変動する）。
- ・ 出張などの事務手続きも実施者において行うこととする。
- ・ 乗船研究成果についても追跡する仕組みを作ることが必要。

事務局および山崎部会長より資料2に基づき、J-DESC 事務局－CDEX との役割分担について説明がなされた。

- ・ CDEX としては、J-DESC 独自予算にかかわる事務支援（例えば執行部会開催旅費の精算等）は行わない方針である。
- ・ 陸上掘削部会とも統一した手続きを取り決める必要がある。
- ・ イベントなどで JAMSTEC が共催しているものについては全面的に協力する。
- ・ 旅費のルートは自己申告、半券の提出は省略などが可能かどうか。
- ・ 法人化に際しては、手続きはしっかりとやる必要があるだろう。
- ・ 会計係でアルバイトを雇うことも可能（J-DESC 予算）だが、アルバイトの人の作業場をどこに置くかは問題が残る。
- ・ J-DESC 独自予算で行う事業の募集・取りまとめ等は CDEX にて行う。

今年度については、庶務の業務量を把握しながら検討を進めていくと同時に、CDEX に J-DESC のアルバイトを置くことの可能性について調査することが合意された。

3. IODP 掘削航海関連情報.....資料 3

・乗船者募集状況

資料3に基づき、事務局より、標記の件について説明がなされ、以下の件について合意がなされた。

- ・ 募集締め切りを5月末まで延長し、連合大会で宣伝を行う。
- ・ CRISP については、Co-chief に協力を求めるとともに NanTroSEIZE 関係者にも協力してもらう。

・OTF 報告

山崎部会長より標記の件について報告がなされた。

- ・ 4月末に東京海洋大（IODP-MI）で OTF が行われた。
- ・ 山崎部会長が大河内委員の代理で出席した。
- ・ JR 号は Mid-Atlantic の後、Mediterranean Outflow を行った後、太平洋に戻り Alaska Margin、Asian Monsoon（日本海）、IBM（Pre-Arc Crust）などを実施する案が提示されている。
- ・ 決定は SPC にて行われる。
- ・ 「ちきゅう」は7月中旬に NanTroSEIZE Deep Riser のトップホール掘削、その後9月頃から沖縄トラフ、さらにその後、NanTroSEIZE のノンライザー掘削予定（11月～1月）。
- ・ 来年度以降はトップホール掘削地点にて深掘りを行うプランが提示された。

4. New Science Plan 策定（SPWC）への対応について

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ この執行部会中にロンドンで SPWC 会議が開催されている。
- ・ 6月初め頃に日本の SPWC 委員などと状況確認のため打ち合わせを行う予定。

5. Japan Asia Pacific IODP Consortium (JAPIC)の可能性について.....資料 4

資料4に基づき、山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ オーストラリア、ニュージーランド、韓国などが集まって Asia Pacific IODP Consortium を作り、フルメンバーを目指していたことが発端。
- ・ 日本はオブザーバーとして山崎部会長が会議に参加した。
- ・ 2 回目の会議の後、中国（2 回目の会議は欠席）はコンソーシアムには入らない意思を表明し、中国抜きではフルメンバーになることは不可能であるため、日本に入ってもらえないかとの打診があった。
- ・ 分担金および権利の問題もあるため、実際に進めるには MEXT などからも意見を聞く必要があるが、サイエンスを進めるうえでどのようなメリットがあるかを J-DESC として検討する必要がある。
- ・ 6 月京都の IWG+ の際に非公式会合を日本も含めて行う予定。
- ・ JAPIC が発足した場合、参加のタイミングとしては 2013 年がめどになるだろう。

以下、コメント等

- ・ 実際に発足した場合は現在のヨーロッパのような形になる。ヨーロッパはヨーロッパの統一オフィスに加え各国のオフィスが存在する。ヨーロッパの方式を学ぶ必要がある。
- ・ J-DESC は日本国内、さらにその上の階層に JAPIC が位置づけられることになる（IODP の PMO）。分担金の割合から考えて日本がそれなりの権利（3 分の 2）を保有し、オフィスも日本に設置しリードすべきであるが、一方でヨーロッパのようにうまくやっけていけるかどうかは未知。
- ・ 乗船枠にしても、掘削海域にしてもコンソーシアムを作ったからといって有利になるとか限らない。今のシステムでも十分に対応は可能なのではないか。
- ・ もう少し国が多ければコンソーシアムとして意味をなしてくるかもしれない。

6. 国内専門部会・国際パネル関連報告資料5、6
はじめに資料5に基づき、SAS 委員ローテーションについて事務局より説明がなされた。

SASEC

加藤委員（静岡大）が6月退任。後任の選出が必要。6月のSASEC

SPC

徳永委員（東大）の後任として前川氏（大阪大）、大河内委員の後任として多田氏（東大）が就任。

SSEP

5月に山本正伸氏（北大）、森下氏（金沢大）、石塚氏（産総研）が就任。石渡氏（金沢大）が5月に退任。後任の選出が必要。SASの改組があるため、6月のSASECでの結論を待つ今後のローテーションの方針を検討する。

SSP

日野委員（東北大）の後任として中村氏（大気海洋研）が選出されており、J-DESC内での手続き待ち。

STP

成瀬委員（千葉大）の後任として坂井氏（JAMSTEC）、林委員（JAMSTEC）の後任として廣瀬氏（JAMSTEC）。

EPSP

薛委員（元京都大）の後任として尾西氏（秋田大）が選出され、J-DESC内での手続き待ち。

EDP

浅沼委員（東北大）および渡辺委員（東海大）が再任。

以上のローテーションに基づき SAS 委員候補を IODP-MI に推薦することについて、幹事会に諮ることが合意された。

次に資料 6 に基づき、科学計測専門部会報告が事務局よりなされた。

- ・山本裕二氏（高知大）、山本由弦氏（JAMSTEC）が専門部会の新委員となることが了承された。
- ・科学計測専門部会（古生物 WG）へは微古生物学者のためのガイドラインの日本語版を早急に仕上げるよう要請することが合意された。

次に森田委員より環境保護安全専門部会報告がなされた。

- ・EPSP では下北と沖縄掘削について審議がなされる予定であり、その事前打ち合わせが行われた。

7. 普及活動報告資料 7、8

- ・普及講演会（5/22, 海洋大）

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・東京海洋大にて開催。
- ・メールのみでなく、直接関東地域の大学などの先生に連絡し、人を集めてもらうようお願いする。
- ・司会は沖野委員。

- ・IODP/ICDP タウンホールミーティング（5/25, JPGU）

山崎部会長および事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・飲み物については MI に負担していただけることになった。
- ・フライヤー等を配布し、宣伝を始める。
- ・飲み物の発注は昨年と同程度とする。

8. 会員提案型活動経費審査結果資料 9、10

事務局および安間部会長補佐より説明がなされた。

- ・現在までに以下の 2 件の提案があった。
- ・板木氏（産総研）提案：申請額 130,000 円、採択額 200,000 円。プロポーザル策定に関わるため、招待講演者の旅費の使用制限はない。
- ・中塚氏（名古屋大）提案：申請額 300,000 円、採択額 300,000 円。ワークショップの開催のため、招待講演者の旅費の使用制限は 5 割まで。

学生への旅費支援はコアスクールの旅費補助と同等の 10,000 円とし、開催地によって少々の増額をすることが合意された。

WS に伴い、J-DESC の宣伝もするよう要請することが合意された。

9. 今後のアウトリーチ活動について資料 11

はじめに事務局より資料 11 に基づき標記の件について説明がなされた。

- ・「ちきゅう」が本牧に停泊中のうちに J-DESC の研究者を対象とした見学会を開催する。日時は未定だが、ショートノーティスで案内がある予定。その際には興味のある人に情報を回してほしい。
- ・今年度も「ちきゅう」乗船スクールを開催したい意向が CDEX にある。寄港の予定などに関連するため日程はまだ確定できないが、J-DESC にもぜひ協力してほしい。
- ・「ちきゅう」が沖縄に寄港した際にぜひ一般公開をしてほしい（松本）。

次に山崎部会長より J-DESC のアウトリーチ活動について説明がなされ、議論がなされた。

- ・事務局としてはキャンペーンに関して特に予定はない。より効果的な（乗船者増などが見込める）アウトリーチができればよい。
- ・一般普及に関して効果がどれだけあったのかを評価するのは難しい。
- ・学生向けについてはこれまでのキャンペーン開催地の担当者にヒヤリングを行うことで評価できるかもしれない。
- ・大学のセミナーに講師を派遣することが最もリーズナブルな方法だろう。講師は登録制とする。
- ・サイエンティフィックな面について掘削科学を支える人材を育てるためのサマースクール（ECORD サマースクールがモデル）を行うことも一つの方法。
- ・上記の普及活動のシステムについての実施要領を坂本委員が案を作成する。

10. その他

- ・日韓プロポーザルについて

松本委員より標記の件について報告がなされた。

- ・4月24、25日に沖縄トラフ日韓プロポーザルの古海洋チームでプレプロポーザルと APL プロポーザルの策定ワークショップを行った。
- ・10名参加。
- ・会員提案型活動経費で支援を受けた。
- ・次回は9月に韓国でワークショップを開催し、プロポーザルのブラッシュアップを行う。
- ・WPGMなどで日韓以外の研究者にも呼び掛けていく。
- ・地質学会@富山の際に Final draft を作成し、10月締め切りまでに APL を提出する予定。
- ・プレプロポーザルについては、来年度の JAMSTEC の事前調査航海に応募することも視野に入れている。→J-DESC を通す場合は2月に専門部会で議論を行い、来年度に申請、再来年度実施となる。小平氏に相談するのがよい。
- ・テクトニクスチームも含めたワークショップを沖縄で開催することが確認された。その際には J-DESC から支援をしてほしい。
- ・日韓合同シンポジウムに関しては、J-DESC 主催で実施するかどうかについて次回執行部会で検討を行う。人を集めるのであれば、連合大会や地質学会を利用して実施するのがよい。

- ・ 次回開催日程

SASEC および IWG+が終了した後にメールで調整する。